

第 11 回エリア会議・討議要旨

【全体的に】

- ・ 3 年、4 年と色々な活動をしてきて住民が変わってきた。いきなり住民運営は無理なので、関係者を増やし、地元の方が中心になって活動できるような体制を後 2 年くらいで構築することがエリア会議の一つの目的。

【地域の活動・活動団体について】

- ・ CC ラボや広場を活用した活動ができる団体はどれくらいあるか。
→プロジェクト初期に調査をしていたが、きちんとした数はまだ把握できていない。引き続き把握をしていきたい。
- ・ 今後のコミュニティ活動の核は女性。女性の力を色々な形で借りることは重要。
- ・ 音楽関係のイベント開催時に声を掛け合って、地区内で皆さんと手を組んだ活動ができるようになってきた。それは CC ラボが 3 年たち、そこで出会った方々の手が広がり、チームワークができ、色々な所で話がうまくいき、お互いに集まってきて、そういう状況になっている。
- ・ 子どもたちが中心でその親が集まる活動のパターンが自然でわかりやすい。キッズダンスの発表会をサンモール広場で実施している。そういう発表の場を地域がどう提供してあげるかが大事。広場との連携の中での活動拠点の一つになっている CC ラボをやめられると困る。
- ・ (洋光台の文化をつくる会) そういう連絡会も重要で、そことサンモール広場や CC ラボとの関係をうまくつなげると、より活性化して使われる。
- ・ サンモール商店街にもご協力願って、自治会を含め、音楽から全部手をつながれている状況はある。

【「シン・ゴジラ」今後の展開について】

- ・ 「シン・ゴジラ」もせっかくここまで来たから勿体ない。蒲田では区長が熱心で商店街で商品開発したり、グッズもあり、テレビに随分出てきている。この流れは行政などが動かないとできないのか。洋光台でやろうとした時にどこから手がけていくか難しい。庵野監督が洋光台が好きで、どうしても洋光台で撮影したいという話だった。
- ・ なぜ洋光台が好きなのか、その理由がわかれば。性格が少し違うと思うが、アニメでは何とかの聖地として若い人が毎年集まるような場所になっている。今後どう生かしていくか、皆さんでご検討いただければ。

【次世代スタイル WG について】

- ・ 次世代スタイルのビジョンがあり、新しい技術などを用いてそのビジョンにどう到達するかという発想なのか、色々な要素技術を使ってみると結果的に次世代スタイルが出てくるのではないのかという事で進めているのか。どちらなのかよくわからない。
- ・ 3 つのワーキングをつなげて展開していければ。団地を核にした地域の活性化に向けて、団地におけるライフスタイルの新たな提案と、洋光台の坂があるロケーションを生かした健康づくり提案を地域の活動の中に落とし込みつつどうアウトプットするか。

- ・企業がここに参加して何をgetしたいのか見えない。洋光台でこういう成果が得られたから他でも展開するという話に今のところつながっていない、先が見えない感じ。
→国際航業は例えば電気の自由化も含めて新たな省エネ提案を行うことで参加、東京ガスは省エネの点では、URが考える今後の省エネ住宅に仕事として入っていくことかと思う。
- ・きちんとしたネットワークがある所で環境や防災について展開することが、個別ばらばらの地域よりもずっと効果がある。洋光台で行えば繋がり、全体としてネットワークすることによる相乗効果が生み出される。そういう地域だからこそプロジェクトを展開している。ある意味でのモデル性をここで獲得できるという意味では、企業も参画する意味がある。
- ・CCラボの設置をもとにしながら、既にあったもの、新しくできたものがそれぞれ関連しながら動いていることが徐々に見えてきて、そこにある種のソーシャルキャピタルはある。そこに次世代スタイルがある感じがするの、既存のネットワークを使って展開という話になっている。ずっと動いてきたものと、この次世代スタイルという新しい未来を見ているものが、もう少し一緒になったら面白い。
→私たちがずっと活動することはできないので、私たちの提案に対して、既存の活動の中で、まちの方が自ら手を上げて、新たな活動を起こしていかないと難しい。その勘所がわからないので、今はいろいろなアイデアを出しているところ。これだけの活動をしているまちはないので、その中に、新しいアイデアを少し入れて、それを一緒に進めてく方が出てきて、最終的には私たちが一歩、二歩下がっても、次のイベント、次の活動に繋がることを目指している。
- ・(地域住民との接点について) CCラボで11月16日から5日間、この1年半の取組発表と、省エネに関する講演を行う。今後ケアプラザや青少年夢環境部会ともより深く連携するために、声をかけて場を設けたい。
- ・(地域住民の防災関係組織と次世代スタイルとの関係について) それぞれの話は伺っていて、大体わかっている。省エネに関しても、年間を通して使う家電に全部機器を付けて1年間測定し、省エネの効率的な生活をどうするか^の無料診断に参加している。

【防災について】

- ・洋光台は住宅が安定しているので防災拠点に避難しなくて済むため、戸建て高齢者への支援が広範囲に大量になるので団地より難しい。
→団地だけでなく地域全体として、どういった方法がいいのか専門家と話をする。
- ・洋光台の防災にとって最も大事なものはインフラ、生活基盤をどうするか。ローリングという良い方法を聞いたが、それを地域の皆さんにどう理解してもらい進めていくか。団地にはローリングするだけのスペースがない。
- ・各自治町内会等では防災に予算を多くとっているの、防災に携わっている人、予算を考えている人にまずPRすべき。
- ・高齢者は実際に目で見ないとわからない。CCラボなど(での展示)もいいし、どういう生活をすればいいとプレゼンしなければと思っている。
→個々の家に対応するのはなかなか難しいので共同で議論しないと。
- ・集住居住者は建物が壊れてなければ一旦戻ることが大切。その際に食糧も含めどうインフラ供給ができるか、地域の防災倉庫などとの連携をどう考えるかはどの地域もできていない。

- ・集会所などに、仮設トイレなど災害時に使える装置ができていれば随分違う。

【集会所コンペについて】

- ・空間設計も大事だが、運営形態、マネジメント、どういう収支を入れていくか。食の機能をどう入れるかも運営形態にかかわってくる。
→機能については検討中。運営は事業者を選定し、そこがサブリースして運営していく。うまくいけばまちの事務局にもつながる。収入が得られないと経営ができない。住宅地の団地に魅力的な提案ができるか。CSR だけでは運営してもらえない。

【全体を通して】

- ・他の団地などへ成果の応用を考えていると思うが、どう進めていくのか。関心を持っている人もいる。洋光台での成果や知見の伝え方について自分としても問題意識がある。
→CC ラボは他団地でもという考えがあるが、まちの活動は他の地域はこれほど活動的ではないので難しいだろう。今の活動とプロジェクトの肝は何かを簡単シンプルにまとめて、洋光台プロジェクトは何かを PR 展開していきたい。
- ・5分くらいの映像作品を沢山作り YouTube に上げておいて、見てもらう方法もある。

【その他】

- ・郊外住宅地の共通問題は、建物の老朽化と、住民の方の高齢化。そしてコミュニティ、地域のつながりが大きな課題になっていて、それを何とかしようと住宅地の再生を洋光台と3つの地区で展開している。住宅だけでなく、防災にも力を入れ、観光も手がけているのでそれを活かし、地道に参加しながら考えようと思っている。
- ・お金を民で稼ぐことがもっとあってもいい。有料イベントをどれだけ開催できるかを目標にするといい。情報の共有は色々な形でできるので、そこを積極的に進めていきたい。
- ・例えば駅前広場を企業が使う、公園の中で企業が活動できるような機会や場所をどう提供するかなど、新しい側面の議論も必要。広場を企業が使いたい場合の UR の対応は？
- ・プロジェクトのスキームと合えば、色々なルールはあるが使っていただける。
- ・UR もずいぶん変わってきた。去年から集会所の使用料も、敬老会やお祭りなど地域の生活の活性に資する活動で使う場合は使用料をとらない。そういう形が普及している。
- ・まちを元気にする時に活動に対してのお金の支援は外せない。そこに対応しなければ、いくら箱を作ってもどうしようもない。
- ・まちを活性化して、そこから上がる賃料が増えればいい。
- ・UR にはコミュニティに関する部分は賃料が半額になるという仕組みがあり、保育園や学童保育などが商店街に入り活性化している部分がある。商店街でもそういったコミュニティスペースを来年度設置できるよう予算をとった。来年度、UR に認めていただければ、1部屋借りて少しでも役に立つような活動をしたい。

以上